

二〇一九年新春展

2019 New Year's Exhibition

Chanoyu On The Road

旅す 茶道具

併設展 歳寒三友—新春を寿ぐ松竹梅—

Simultaneous Exhibition
The Three Friends of Winter: the New Year's Celebratory Pine, Bamboo, and Plum Blossoms

1.7mon—3.31sun

※展示替え期間:2.4mon—2.27wed

【開館時間】午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)

【休館日】月曜日(ただし1月14日は開館)、1月15日(火)

【料金】一般:700円、大学生:400円、中高生:300円、小学生以下無料
入館者にはお抹茶と和菓子を差し上げています(無料・午後4時まで)。

茶道資料館
Chado Research Center

〒602-0073
京都市上京区堀川通寺之内上る
寺之内堅町682番地 裏千家センター内
TEL:075-431-6474

<http://www.urasenke.or.jp/textc/gallery/tenji/index.html>

<http://www.urasenke.or.jp/texte/organ/konnichian/gallery/index.html> (English)

賀茂祭礼図絵巻(部分) 茶道資料館蔵

二〇一九年新春展

旅する茶道具

旅は、いつの時代も人の心を浮き立たせるもの。旅先に携える品々もまた、楽しさを演出する大切な存在です。とりわけ、茶箱や旅茶箱、旅茶碗といった持ち運びできる茶道具は、日常と異なる空間で茶を味わうために欠かせないものと言えるでしょう。本展では、茶箱や茶弁当といった携行する茶道具をはじめ、市中を賑わせた荷い茶屋、江戸と京をつないだ御茶壺道中に関する諸資料、それらの場面を描いた絵画資料などを展示し、旅とともに人々が喫茶に親しんだ様子をご覧ください。また、裏千家の歴代家元が旅先で造った茶碗など、旅に関連した茶道具もご紹介いたします。



黒漆塗松竹梅紋蒔絵茶弁当 彦根城博物館蔵

幕末の大老・井伊直弼の二女弥千代の婚礼調度品。茶道具一式と重箱を収納する屋台を、荷い棒で担いで持ち運ぶ。



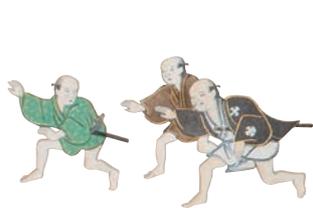
雑器盆 裏千家11代玄々斎直書 添状付 茶道資料館蔵

裏千家11代玄々斎の文字が金の蒔絵で施されている漆器盆。添え状には、嘉永4年(1851)に沼津を訪れた際の宿泊先で、家主から古器に一筆記すことを求められ、これに応じたという経緯が記されている。



赤茶碗 元禄三年 今日庵蔵

裏千家4代仙叟手造りの茶碗。内箱蓋裏に「元禄三庚午 赤茶碗 於加州金沢仙叟削之」という書付けがあり、元禄3年(1703)、金沢滞在中の作であることがうかがえる。



茶道資料館メンバーシップ校(加盟順)

京都造形芸術大学、立命館、光華女子学園、京都学園、京都大学、京都市芸繊維大学、同志社、京都教育大学、平安女学院、京都文教学園、花園学園、京都精華大学、京都府立医科大学、京都府立大学、京都外国語大学、京都産業大学 2019年1月現在



交通案内

市バス
JR京都駅中央口のりばB1より⑨
阪急大宮駅→四條堀川より⑨⑫
いずれも堀川寺ノ内下車、徒歩3分
京阪出町柳駅より⑩⑪、堀川今出川下車
堀川通東側を北へ徒歩10分

地下鉄
烏丸線鞍馬口駅下車、西へ徒歩15分
東西線二条城前駅より市バス⑨⑫
堀川寺ノ内下車、徒歩3分



キンマ鳥獣文茶箱 茶道資料館蔵

菊醬(キンマ)は、タイやミャンマーに伝わる漆工芸の技法。草花や鳥獣の文様が施されていることが多い。なお、利休所持の伝世品として菊醬茶箱の存在が知られている。